

千葉県は約51万円と全国で9番目に高く、一時金の支給額42万円を大きく上回っています。館山市における合計特殊出生率は平成23年には1.62でしたが令和元年には1.20と大幅に低下しており、少子化が加速的に進んでいることがわかります。不妊治療同様、少子化対策として、出産育児一時金に上乗せした補助を検討することを要望しました。

Q3) 子ども医療費の助成範囲を高校3年生まで拡大すべきではないか？

A3) 本市は子ども医療費助成制度を国全体としての根幹をなす公的制度と認識しており、全国的に統一的な運用が必要と考え、国や県への働きかけを継続して実施しているところである。高校3年生までの対象年齢の拡大については、今後も国や県の動向や他市町の状況等を確認しながら検討を続けていく。

所感

県内54市町中、高校3年生まで助成している市町は、平成28年度は12でしたが、令和3年8月1日時点では、約2倍の23市町に増加しています。また、子どもの減少により、子ども医療費の給付額は平成29年度から毎年数100万円ずつ減少し、令和2年度決算では、令和元年度と比較して約2,250万円も減少しています。高校3年生まで助成範囲を拡大した場合には約900万円かかるとのことであり、予算化できない額ではないと思いますので、今後も粘り強く要望していきます。

行政 一般質問 3

質問・回答要旨・所感



市庁舎の建て替え問題 について

Q1) 現時点での市庁舎の耐用年数は？

A1) 本館及び議会棟は建設後61年が経過している。災害発生時に来庁者や市職員の安全を確保し、防災拠点としての機能確保を図るため、議会棟及び2号館は平成20～平成21年度、本館は平成23～24年度に20年程度の使用を前提とした耐震改修工事を実施している。

Q2) 大規模改修などにより、耐用年数を伸ばすことは可能なのか？

A2) 耐震改修工事の際の使用年数について、現在のところ変更の考えはない(伸ばせない)。

所感

鉄筋コンクリート造の建物の実際の耐用年数は、コンクリートの骨材や周囲の環境、コンクリート表面のメンテナンスなどに左右されますが、通常の場合であれば100年以上の耐用年数があるとされています。しかし、現市庁舎においては、コンクリート内の鉄骨の腐食が既に始まっており、給排水管等の更新も難しいため、建て替えと